

第54回日本小児感染症学会総会・学術集会

The 54th Annual Meeting of the Japanese Society for Pediatric Infectious Diseases

会期：2022年11月5日(土)～6日(日)

演題名

Multi-Plex PCR による 小児感染症への新たな挑戦

～鑑別診断＋疫学への貢献～

ランチョンセミナー 1

座長

森内 浩幸 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児科学 教授

演者

伊藤 健太 先生

あいち小児保健医療総合センター 総合診療科 医長

日時

2022年 **11月5日** (土) 12:00～12:50

会場

B会場 (4F 国際会議場)

アクロス福岡 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

本ランチョンセミナーは整理券制となります。

配布日時 11月5日(土) 8:00～12:00

配布場所 アクロス福岡 4F ロビー

注意事項

会場には整理券をお持ちの方から優先的にご入場いただけます。
整理券はセミナー開始5分後に無効となり、その後は先着順に入場していただけます。予めご了承ください。

本会の参加にはオンライン参加登録が必要となります。

参加方法は、第54回日本小児感染症学会総会・学術集会

WEBサイト (<https://www.c-linkage.co.jp/jspid54/>) をご確認ください。



共 催

第54回日本小児感染症学会総会・学術集会
バイオメリュー・ジャパン株式会社



演者

伊藤 健太 先生

あいち小児保健医療総合センター 総合診療科 医長

演題名

Multi-Plex PCR による小児感染症への 新たな挑戦

～鑑別診断＋疫学への貢献～

抄録

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行により、SARS-CoV-2 の微生物学的検査精度を高めるべく、多くの医療機関に自動核酸増幅検査装置が普及した。種々導入された機種の中で、SARS-CoV-2 以外の呼吸器感染症の原因微生物について検査可能である Multi-Plex PCR パネルを用いた機器は、小児科医が日々戦っている普通感冒から細気管支炎、クループ、肺炎などの主な病原体の「見える化」をもたらしつつある。

コロナ禍になり2年以上経過した今にあっては、これらの検査が施行されるモチベーションはコロナか否かという点である傾向が高い。しかし COVID-19 流行以前、病原体検索にあたっては問診診察所見から可及的に事前確率を上げ、検査特性を十分に考慮したうえで検査をしていたはずである。小児科医は、非常に感度が高く、半ば網羅的に病原体検索を行えるこのような機器をどのように用いるべきであろうか。「病原体の見える化」が臨床現場にもたらす功罪について、呼吸器感染症のみならず、中枢神経、消化管感染症、血液培養陽性例など症状ベースに様々なパネルが運用されだした今こそ議論したいと考える。

また、コロナ禍の影響で感染症流行情報に対して、程度の差こそあれども、医療従事者のみならず一市民やメディアなどが多大な関心を示すようになった。これらの感染症疫学情報の多くは感染症法上の報告疾患に関して、国立感染症研究所や地方衛生研究所がまとめた情報から得られるため、その公開までに1-2週間のタイムラグが生じてしまう。感染症疫学情報をリアルタイムに得るために、各医療機関で得た Multi-Plex PCR の検査結果を用い、情報を公開するプラットフォームの開発も進んできている。海外での先行使用情報なども参考に日本での現状などについても言及したい。

お問い合わせ先

ビオメリュー・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目17番7号赤坂溜池タワー2階
営業部 Tel : 03-6731-9000

www.biomerieux.co.jp

